



教育支援部だより

令和4年12月23日(金)発行

No. 2

今回は、「平野中学校との交流及び共同学習」と「二本松工業高校との交流及び共同学習」の様子についてお知らせします。

平野中学校との交流及び共同学習

12月6日(火)に平野中学校2年生と交流及び共同学習を行いました。また、11月には交流活動の事前学習として、平野中学校に本校の教員が出向いて、障がいの理解啓発を促す授業も実施してきました。

レクリエーションでは、ペットボトルボウリング班、ポッチャ班、フライングディスク班の3つのグループに分かれて本校生徒と平野中学校の生徒がお互いに協力しながら活動することができました。

交流及び共同学習は、同世代の友達と交流できる貴重な機会となります。コロナ禍においても、障がいの有無に関わらず、同じ場で共に学ぶインクルーシブ教育の構築に向けた実践的な活動ができて有意義であったと感じています。両校の生徒から「楽しかった。」「一緒に活動できて良かった。」等の感想を聞くことができました。



二本松工業高等学校との交流及び共同学習

二本松工業高等学校の生徒が本校児童生徒の興味やニーズをもとに教材を制作し、実際に活用しながら交流を深めていくことを目的に行っています。今年度は高校生3名が来校し、計4回本校の児童生徒と交流しました。1回目と2回目は、本校児童生徒と一緒に学習をする中で興味関心やニーズを探り、3回目は、試作品を使用して、興味関心、操作性、安全性などを確認したり、改善点について担任と情報交換をしたりしました。4回目は、前回の改善点をもとに制作した完成品を使って一緒に活動しました。また、二本松工業高等学校の生徒からの研究発表の報告会も行われました。交流をした本校児童生徒は、得意な動きを生かした教材や好きな音楽が鳴る教材を作っていたいただき、とても嬉しそうな表情で活動する様子が見られました。また、高校生からは、「相手のニーズを尊重することの大切さを学んだ。」という感想が聞かれました。

